

宮崎県日向市（国内 11 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要（令和 2 年 12 月 1 日実施）

令和 2 年 12 月 1 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、山間部の河川沿いに位置し、付近は山林に囲まれている。
- ② 現地調査時、発生農場に沿って流れる河川及び農場から約 1.2km の距離にあるダム湖でもカモ類は認められなかった。
- ③ 当該農場には平飼いの開放鶏舎が 3 棟あり、発生時は 1 棟を除き、肉用鶏が飼養されていた。発生鶏舎は農場の最も入口側、河川から最も遠くに位置する鶏舎であった。

2 通報までの経緯

- ① 管理人によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は、11 月 22 日までの過去 21 日間の平均死亡羽数は 4.6 羽で推移していたところ、11 月 23 日以降、25 日を除き、20 羽以上の死亡が継続していた。前回導入した鶏群も同様の死亡羽数で推移していたこと、解剖したところクロストリジウムを疑う所見が確認されたことから、抗菌剤を投与し、経過をみていた。その後、死亡羽数は減少せず、出荷日齢を迎えた 11 月 30 日には 60 羽の死亡鶏が確認されことから、系列会社の担当者が簡易検査を実施したところ、陽性反応が確認されたため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ② 管理人によると、11 月 30 日の死亡鶏は発生鶏舎内に散在していたが、鶏舎内の 3 区画のうち、鶏舎奥の区画が死亡羽数はやや多かったとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では専属の管理人 1 名で管理を行っており、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏の回収を行っていた。
- ② 出荷時には、系列会社の従業員が手伝っていた。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 管理人は、農場専用の作業着とサンダルを使用していた。また、鶏舎毎に専用の長靴を設置しており、鶏舎に入る際にサンダルから長靴に履き替えていたが、手指消毒は実施しておらず、手袋の交換も行っていなかった。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 飼養鶏への給与水は、沢水を農場内の貯水タンクに貯蔵し、塩素消毒の後、各鶏舎に供給されていた。
- ④ 鶏糞の処理は、オールアウト後に業者に委託して排出していたため、今回の発生鶏群については、鶏糞の排出はなかった。
- ⑤ 健康観察時に回収した死亡鶏は、回収業者が農場から 5km ほど離れたところに設置した集積所まで、管理人が毎朝カゴに詰めて搬出しており、搬出された死亡鶏は、毎朝回収業者が回収していた。なお、当該集積所は、当該農場を含めた近隣 4 農場で共用していたが、各農場に車両が戻る際には農場の入口で車両消毒を行っていた。
- ⑥ 管理人によると、オールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は鶏舎内の清掃・消毒を行っていたとのこと。
- ⑦ 管理人によると、農場敷地内には週 1 回程度消石灰を散布していたとのことであっ

た。

- ⑧ 管理人によると、車両が当該農場に出入りする際、農場の入口に設置された動力噴霧器により消毒していた。衛生管理区域の境界が曖昧であったが、動力噴霧器の位置を基点に衛生管理区域として区分されているという認識であったとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎の側面は金網（マス目は約 2.0×2.0cm）とその外側にはロールカーテンが設置されている。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 発生鶏舎は、4 か月前に竣工した新しい鶏舎であり、側面の金網や外側のロールカーテンには破損は確認されなかった。鶏舎前後面の換気扇には金網等が設置されておらず、換気扇が停止している間は、小型の野生動物が侵入可能な 3cm 程度の隙間が確認された箇所があったが、現地調査時には、侵入した形跡は認められなかった。
- ② 管理人によると、鶏舎内外でネズミを見かけることはなかった。このため定期的なネズミ対策（殺鼠剤の設置）は行っていないとのこと。
- ③ 管理人によると、農場の上空をカモ類等の野鳥が通過することがよくあったとのこと。